其節までは古萩宍戸民部屋敷なり、

〔和漢三才圖會七十九長門〕長府。至江戸二百八十里、西至大塚二里、乾至川棚三里、至瀧郡四里、巽至下關一里、南至小倉四里、

〔西遊雜記二〕長府は毛利侯の御在所にて、甲斐守御知行五万石　御知行よりも能所也、風景も能、圖の如く○圖略　干珠島、滿珠島、すべての海濱きれいにして、勝地といふべし、

〔大內義隆記〕同八年○大永卽享祿元年　四月上旬ニハ、肥前ノ國龍造寺ノ一揆ノ時ハ、義隆御發足ノ事ナレバ、入道○道麒　先陣仕リ、屋形ハ長府ノ修禪寺ニヒカヘサセ玉ヒツヽ、○略中　同三年○天文　十一月ニ、悅ノ旗ヲアゲ、屋形ハ長府ヲ御開陣、道麒ハ明ル二月ニ、シツハライシテ關ノ戸ヲ歸レバ、○略下

〔安西軍策三〕大內義長山口沒落附最期事

弘治三年、○略中　義長今ハ元就ヲ退治スベキ行ハナシ、○略中　內藤彈正杉民部已下二千餘騎ヲ隨テ、長府勝山ヘ落給フ、元就朝臣此由ヲ聞給ヒテ、○略中　長府ヘハ福原左近丞ヲ大將トシテ、五千餘騎被差向、勝山ヲ取圍、

〔和漢三才圖會七十九長門〕赤間關。俗云赤間關。○往昔赤間門司共續於長門地一處、而神功皇后朝鮮渡海後此地成海、今卽門司屬於豐前、海上去一里而和布苅神社亦門司地云云、紫硯石出於此、

〔海東諸國記〕長門州○略中

忠秀　丁亥年○應仁元年　遣使來賀觀音現像、書稱長門州赤間關鎭守高石藤原忠秀、

〔日本書紀通證七〕宗因曰、赤女以色名之、鯛中一種、西海多產之、云笛吹是也、長門赤間關以赤女多名之、見風土記、

〔西遊雜記二〕長門國豐浦郡赤間ケ關、下ノ關ともいふ、時には赤間ケ關とかく、西國第一の湊にして、浪華より中國に及び、九州北國船路往來の咽首にて、諸州の廻船よらざるはなし、市中一万に餘り言語あしからず、諸國への便りも至て能繁昌の、富饒の地といふべし、

〔吾妻鏡四〕元曆二年○文治元年　正月十二日丙申、參州○源範頼　自周防到赤間關、爲攻平家自其所欲渡海之